

<h3 style="text-align: center;">山と川</h3>	<h3 style="text-align: center;">小屋と橋</h3>	<h3 style="text-align: center;">苔 寺 2</h3>	<h3 style="text-align: center;">源平川</h3>	<h3 style="text-align: center;">苔 寺 1</h3>
<p>遠近法を用いた図は広大な大地を見るものを感じさせます。その点で、手前の太い樹木、そして川の流れ、その流れが奥へ、奥へと視線を導いてくれます。空の広さも手伝って、大きな空間を感じさせてくれます。</p> 	<p>寒い冬がやっと去り、少し雪は残るものの、待ちわびた春の明るい陽射しを浴びた小屋、雪どけ水が元気よく聞こえる喜びに満ちあふれた小川をイメージして描いてみました。</p> 	<p>絵に線を入れずに黄色、青色、そして紺色と重ねていきました。そのため、色の濃淡が面白く出ました。また自然な色合いになり、気に入っています。樹々の太さの差、葉の緑色の濃さによって奥行きを出せ、うれしいです。</p> 	<p>三島市内を流れる源平川、遠近感を出すのは楽しいものです。水面に映る色はいろいろな色が混在しているのが面白く描き加えるたびに色に変化し、自然な色になっていきました。川の色は青だけではなく、その風景の色なのです。</p> 	<p>この絵にはまだ線があり、初期の作品です。でも、参道、塀は遠近法が使われています。顔彩でいろいろな色を油絵具のように用いることが分かってきたころです。そのおもしろみを空と、石畳みの色合いで経験しました。</p> 
<h3 style="text-align: center;">京都祇園の春</h3>	<h3 style="text-align: center;">京都 祇園の店</h3>	<h3 style="text-align: center;">秋の景色</h3>	<h3 style="text-align: center;">滝と紅葉</h3>	<h3 style="text-align: center;">京都嵐山</h3>
<p>秋の京・祇園の画です。桜が桜らしくなく、こうした花びらの細かさが苦手です。ひとひらずつこまめに描くのは課題です。道の右側の柵が立ってなくて斜めです。垂直にすればもう少しは良いものができたと思います。</p> 	<p>祇園で有名なお店なのでしょう。赤いのれんがその伝統を象徴しているようです。時代のすうせいを何もかも知っているようなそんなたたずまいに圧倒されそうになります。緑と白の草木が良い。</p> 	<p>うちの部屋の日本風の絵画の広さを出そうとして、うまくいきませんでした。こうなると、自己流になります。川と木そして草原になってしまいました。動物はもう少しお預けです。動くものは水、木の葉、空の雲くらいでしょうか。</p> 	<p>川合玉堂の紅葉のある滝の絵を描こうとして、はまってしまいました。うまくもない筆が、こてこてに絵を油絵みたいにしてしまいました。まあ、これはこれで味が出ていていると思っています。紅葉の紅、水の流れの青、草の緑、樹木の茶色。逆さにしても、何かの絵に見えてしまいます。</p> 	<p>渡月橋の辺は観光地でよく写真が撮られます。京都の夏は殊に暑く、水の輝きはうれしいものです。川の流れは表現が難しく、濃くなりすぎた感があります。本当に水は様々な色を映し出しています。それ故に川面はむずかしいです。</p> 

## 萩の町並み

毛利輝元が萩城を築き、上級武士が住み、今にその風情を残しています。絵に線を使わないと心がけていたのですが、建築物を描く時はある程度必要なのでしょう。少し濃い目の色で枠を入れ、淡い感じを白系統で飾ってみました。



## 上高地河童橋

上高地といえば、このアングルの写真が多く使われています。線を描いてしまった未熟さが見て取れます。橋の左端の影はどう見ても矛盾しています。かといって影を右端まで続けると絵が分断されます。そこは眼をつぶって下さい。



## 田舎の秋

日本の原風景は、農家に田んぼ、そこに小川が流れて、遠くには山々が連なり、春の芽吹き、夏の深緑、秋の紅葉、冬の雪と、色彩豊かに映ろう変化が美しいです。そこには暖かい人間関係があり、皆で協力する精神がありました。



## 山と橋

山と川と橋、これらがあると絵に自然さがさらに加わります。むかし、橋は単なる橋ではなく、神の降りたる場所、聖なる場所を表すそうです。それに流れる水、日本の神道のみそぎに不可欠だったものがそろそろがゆえに爽やかさを感じるのでしょうか。



## 恵方巻き

恵方巻の起源・発祥は、江戸時代末期から明治時代初期において、大阪の商人が商売繁盛の祈願事として始まったという説があります。恵方を向いて無言で、願い事をしながら巻きずしを丸かぶりする…。2012年の方角は、「北北西やや右」とか。



## 恵比寿と鯛

「海老で鯛を釣る」という意味ではないのですが、恵比寿が鯛を釣った絵です。恵比寿は障害児だった為、海に流されたという話があり、その希望という意味で大漁は嬉しい事です。鯛の生きている感じがうまく出せたと思います。



## 花は一時、樹は一生

もう先が危ないという時に描いた絵です。すぐに散ってしまう花よりも毎年その花をつける樹に注目したいと思いました。目の前のことより、長い定規で見ていけば、悲しみも良い思い出になってしまうものです。人生の応援歌です。



## イタリアの風景

地中海の富を集めて繁栄した断崖の街。ローマ・カトリックの強力な影響力の中、でもまだ地元の有力者が城を構え、独自の文化を守りさらに繁栄させようとしています。人々の活気ある声が聞えてきそうな元気な絵になりました。



## 伊豆下田白浜

伊豆下田の海岸は白砂がとても綺麗です。その中を裸足で歩くと、その抵抗が心地よく感じます。木の柵が砂浜を分けていて、アクセントになっています。それも遠近感を出すのに一役買っていて、広い空間を収める事が出来ました。

